

《オリエント急行殺人事件》《ナイル殺人事件》の作家  
アガサ・クリスティは1926年12月、謎を残して失踪した!

Agatha

ダスティン・ホフマン  
バネッサ・レッドグレイブ

ファースト・アーティスト提供 / スウィートウォール・プロダクション  
共同製作カサブランカ・フィルムワークス  
ティモシー・ダルトン / ヘレン・モース  
撮影ピットリオ・スター-O.A.I.C. / 音楽ジョニー・マンデル  
〈アガサ・クリスティの失踪事件〉のテーマ / 作詞ポール・ウィリアムス / 作曲ジョニー・マンデル  
脚本キャサリン・ティナン&アーサー・ホブクラフト / 原作キャサリン・ティナン  
製作ジャニス・アステア&ガブリエル・ローシー / 監督マイケル・アプテッド  
オリジナル・サウンドトラック盤 ● ビクター・レコード & テープ・テクニカラー®  
原作 ● サンリオ刊 | ワーナー・ブラザーズ映画配給

Distributed by Warner Bros.  
A Warner Communications Company

# アガサ

## 愛の失踪事件

First Artists presents A SWEETWALL PRODUCTION in Association With CASABLANCA FILMWORKS

# アガサ

## 愛の失踪事件



「ナイル殺人事件」や「オリエント急行殺人事件」などで映画ファンもなじみ深いイギリスの女流推理作家アガサ・クリスティは、出世作「アクロイド殺人事件」を発表した1926年の暮れ、11日間に及ぶ謎の失踪をとげたことがある。

もっと正確に言えば「26年12月4日金曜日の午後9時45分。彼女は誰にも告げずロンドン郊外サンデルにある自邸を車で去り、翌朝谷間の林で発見されたその車の中に毛皮コートとしわくちやの服と書類カバン、車の近くにひどくすり減った靴の片方とスカーフだけを残して消息を絶ったまま、家出から11日後、何百マイルも離れたヨークシャー州にある鉱泉療養地ハロゲイトのハイドロ・ホテルに滞在中であることがやっつきとめられた。

その間、彼女の行方さがしに乗り出した人は警察関係を含めて5,000人。ロンドン・デイリー・ニュース紙が、彼女の発見につながる情報を最初にもたらした人には賞金を提供すると申し出たほか、各新聞が誘拐、殺人などさまざまな臆測を紙面にならべ立て、競争で騒ぎをあおったせいもある。

しかしそれにしても、なぜ彼女は突然家出し、11日間なにをしていたか?—アガサが家にもどったあと、夫のアーサー・クリスティ大佐は、妻が仕事のしすぎからくる過労と精神的な緊張のため事件当時記憶喪失におちいていたのだと失踪の原因を発表し、噂にあるような結婚生活破綻などいっさい事実無根だと断言したが、それならば、アガサがハイドロ・ホテルの宿帳に記載した匿名が夫の愛人と目されるナンシー・ニールと同姓のテレザ・ニールとなっていたのは何故なのか? ホテル投宿中に彼女がロンドン・タイムズ紙にのせた尋ね人広告「故テレザ・ニール夫人の友人か親戚の方がいらしたらご連絡下さい」は何を意味するのか?

なかにはアガサが自分の小説を売ろうとして仕組んだ売名のためのお芝居だと解釈する人もいたが、しかしアガサ本人が家出の動機と失踪期間中の行動についていっさい誰にも洩らさぬまま、76年に死亡した今となつては、すべてが解きたい神秘の霧の中。その神秘の解明に殊のほか激しい意欲を燃やしたのが、小説家としても著名なイギリスの女性新聞記者キャサリン・タイナンであ



った。失踪者自身がトリック作りの天才ともいえるべき推理作家だったことがタイナンの推理欲をいっそう刺激した。

彼女は連日大英博物館の新聞閲覧室にこもって、50年前の新聞記事を読みあさり、アガサの友人や、ハイドロ・ホテル滞在中のアガサを見たという老人たちを訪ね歩いて、そのあげく、ゆたかな想像力の中からひとつの物語を創り上げた。

「だからこれはフィクションです」と彼女は言う「ただしあくまで事実にもとずいて生み出されたフィクションなのです」と。

脚本を書いたのはタイナン自身とアーサー・ホプクラフト。監督はイギリスのエミー賞を三度も受賞しているTV界出身の俊英マイケル・アプテッド。

アガサを演じているのは、「ジュリア」で78年度アカデミー女優賞を獲得したばかりのパネッサ・レッドグレイブだが、アガサの最初の発見者になるアメリカ人コラムニストに「卒業」「大統領の陰謀」のダスティン・ホフマンが扮しているのも絶妙の配役。きびしく古いイギリス女性の躰と教養を身につけたアガサと、故国を遠く離れて世界を股に生きるアメリカ男との間にいつしか生まれた口には出せぬ恋心を、二人の名優はびつたりの呼吸でみごとに演じているからである。

彼らを囲んで、「嵐が丘」「冬のライオン」のティモシー・ダルトン、オーストラリア映画界の演技派ヘレン・モース、イギリスのTVですでに名の高い若手女優セリア・グレゴリーなど第一級の顔ぶれが演技をきそ

っているのも大きな見ものだ。

スタッフもベテラン揃いで、撮影はホフマンの推薦によりわざわざイタリアから招かれたピットリ



オ・ストラーロ（「暗殺の森」「ラストタンゴ・イン・パリ」「地獄の黙示録」）、音楽は「いそしぎ」「午後5時の舟」のジョニー・マンデル、美術はケン・ラッセル監督夫人で夫の作品「恋する女たち」「肉体の悪魔」「トミー」などにすぐれた仕事ぶりを見せているシャーリー・ラッセルの担当。

ロケ撮影は、アガサ・クリスティが失踪中に滞在中にいたハロゲイトのハイドロ・ホテルへわざわざ出かけて行なわれたが、オールド・スワンと名を変えてすっかりモダンになったホテルに50余年前の面影はなく、アプテッド監督とシャーリー・ラッセルは仕方なくホテルの許可を得て内部を20年代スタイルに改装。それが気に入った経営者が、今後もずっとそのスタイルで通すことにきめたというエピソードもある。

アガサとアメリカ人記者が万感の思いをこめて別れを告げるラスト・シーンの停車場は、ハロゲイトの駅が近代化されすぎているため、ピクトリア調の雰囲気

を残したヨーク州の駅を借りて撮影したが、全編にあふれる1920年代のノスタルジック・ムードもこの作品の大きな見どころ。ホフマンの推挙に応えたストラーロのカメラがみごと成果を見せている。



10月20日(土)よりロードショー!

渋谷東急文化会館5F 渋谷東急 (407) 7029

\*特別ご鑑賞券¥1000(当日一般¥1300の処) 発売中!

日・祝 10:30 平日 12:40 2:50 5:00 7:10